

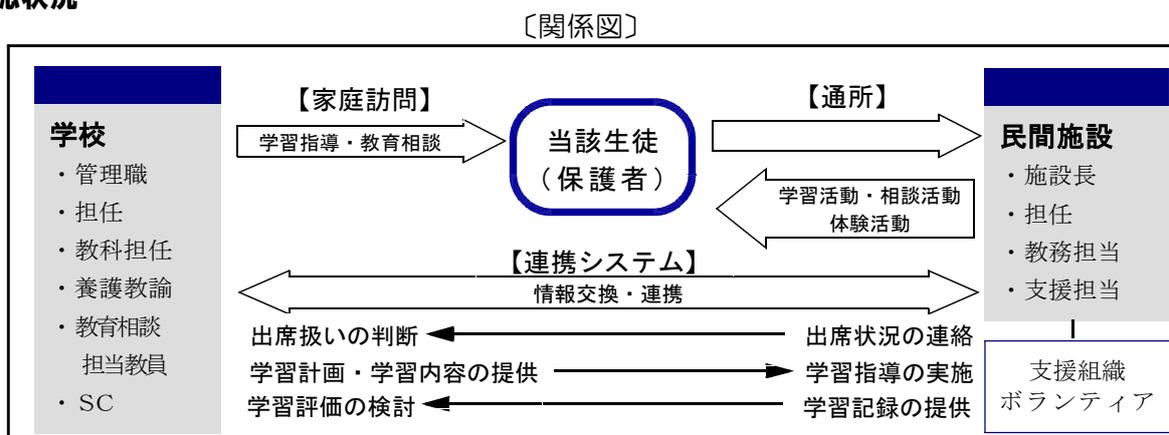
不登校児童生徒への対応事例 1 2 (中学校第 3 学年女子)

～生徒の進路実現に向けた民間施設と連携した対応～

問題の把握

当該生徒は、中学校入学後、環境と人間関係の変化から中学校に不安を感じるようになり、第 1 学年の 2 学期から不登校傾向となり、3 学期から不登校となった。当該生徒は学習に対する意欲を示していたことから、担任や教科担任の他、教育相談担当教員が家庭訪問を行い、当該生徒への学習指導や教育相談を行ってきたが、登校ができない状況が続いた。第 3 学年になり、当該生徒と保護者は、中学校卒業後の進学と生活改善に向け、民間施設での相談・指導を受けることとした。学校は当該生徒の進路実現と自立に向け、民間施設と連携した取組を進めた。

対応状況



〔対応の経過〕

○ 4 月 (民間施設への通所)

- ・当該生徒が中学校卒業後、高等学校進学への強い意志を示したため、保護者は当該生徒が卒業後の高校での生活・学習を円滑に行うことができるよう、不登校児童生徒の支援を行っている民間施設に通所し、学習をはじめとした様々な体験活動を行わせることとした。
- ・学校は保護者の意向を受け、これまで学校が行ってきた家庭訪問による学習指導や教育相談を継続するとともに、民間施設への通所による学習活動や体験活動を組み合わせることで、当該生徒の社会的自立と進路実現を図っていくことを指導方針とした。
- ・学校と保護者及び当該生徒で、今後の民間施設への通所、学校の家庭訪問の在り方について確認し、民間施設への通所を開始することとした。

○ 5 月～ (学校と民間施設との連携)

- ・当該生徒が通所を開始した民間施設と学校の間で、当該生徒に対する相談・指導の方向性や内容、結果を共有し、支援を計画的・効果的に行うことができるよう、連携に努めた。
- ・民間施設への出席状況は、学校(担任)が当該生徒の通所予定日の通学状況を民間施設に確認するとともに、民間施設から毎月の出席状況を通所状況記録にまとめて提供してもらった。
- ・民間施設での学習指導は、学校(教科担任)から当該生徒が民間施設での学習を予定している教科の指導計画や指導内容とともに、家庭訪問での指導を踏まえた当該生徒に適した学習課題や学習内容等を提供し、民間施設と学校における学習指導の接続を図ってもらった。
- ・民間施設での学習状況は、民間施設での学習活動内容、各教科で行っている学習記録票(生徒の自己評価と担当者の評価)、月末に実施しているテストの結果等を提供してもらった。
- ・民間施設から提供された出席状況や学習状況等を参考に、当該生徒が民間施設に通所した日の出席扱いの判断、当該生徒に対する指導の改善及び学習成果の評価への反映を行っている。

○ 取組の成果

- ・当該生徒は学校に登校してはいないが、民間施設への通所と家庭訪問での取組を重ねる中で、学習や人間関係づくりに対する自信をもち、将来の自己実現に向けての意欲を高めている。

不登校の問題に対応するためのポイント

- ・児童生徒の社会的自立と進路実現に向け、一人一人に応じた指導方針と内容を検討すること。
- ・民間施設などの関係機関との連携のシステムを確立し、当該生徒への指導・支援についての情報交換と共通理解を図り、児童生徒に対する支援を計画的・効果的に行うこと。